

- p.009 ※1 (1915-1977).静岡県田方郡土肥村（現在の伊豆市）生まれの詩人、エッセイスト。24歳のときに応召。1941年にハルビンの関東軍情報部に配属されロシア語翻訳を行う。日本の敗戦後、ソ連内務省に連行され、シベリア抑留を経験する。38歳になった1951年に日本に帰還。その後詩作を始め、1955年に詩誌『ロシナンテ』を創刊。1972年には強制収容所での経験を綴ったエッセイ集『望郷と海』を刊行。
- ※2 (1929-)。朝鮮釜山市生まれの詩人。日本占領下の済州市で育つ。1948年の済州島四・三事件に参加後、日本に渡航。1950年頃から詩作を始め、詩誌『ザンダレ』などを創刊。98年に半世紀ぶりに済州島訪問、2003年には韓国籍となる。集成詩集として『原野の詩』、その後の詩集に『失くした季節』など。現在『金時鐘コレクション』が全12巻の予定で刊行中。
- ※3 主な著書として『ディアスポラを生きる詩人 金時鐘』（岩波書店、2011年）や『石原吉郎ーシベリア抑留詩人の生と詩』（中央公論社、2015年）
- ※4 『滅ぼされたユダヤの民の歌』細見和之ほか共訳、みすず書房、1999年。
- ※5 『ワルシャワ・ゲットー詩集』細見和之の編訳、未知谷、2012年。
- ※6 東ヨーロッパを中心に世界各地のユダヤ人によって使用されていた言語。表記にはヘブライ文字が用いられる。中世ドイツ語方言を基礎として、ヘブライ語やアラム語などの影響を受ける。
- ※7 『ポップミュージックで社会科』細見和之、みすず書房、2005年。
- p.010 ※8 (1886-1942)。群馬県前橋生まれの詩人。開業医の家の長男として生まれたが、医学に興味を持たず、旧制中学校在学時代に短歌に触れてから文学の道に入る。当時日本の詩作の主流は文語体であったのに対し、口語自由詩を確立することで日本近代詩の新しい地平を拓く。代表作に『月に吠える』（1917年）、『青猫』（1923年）など。
- p.011 ※9 צפורה קאצענעלסאן-נאכומאוו, יצחק קאצענעלסאן, בווענאס-אייירעס 1948
- ※10 ミンスク南西に位置する都市。18世紀初め頃からユダヤ人の集住が進み、コミュニティが形成される。Walzer-Fass, Michael. (1973). “Korelitz; the life and destruction of a Jewish community.” は1897年に帝政ロシアが行った統計調査を引用し、カレリチュの人口2559人のうち1840人（71.9%）がユダヤ人であったと報告している。
- ※11 Shoah (1985)。フランスの映画監督クロード・ランズマン（Claude Lanzmann, 1925-2018）によるホロコーストを扱ったドキュメンタリー映画。

- ※ 12 Yitzhak Zuckerman (1990). “Sheva ha-Shanim ha-Hen: 1939-1946”. 英語版である“A Surplus of Memory: Chronicle of the Warsaw Ghetto Uprising”は1993年に出版された。
- p.014 ※ 13 Havka Folman Raban, They are still with me, translated from the Hebrew by Judy Grossman, Ghetto Fighters’ Museum, 2001
- p.015 ※ 14 リトアニア・ポーランド・ロシアユダヤ人労働者総同盟。通称ブンド。1897年にロシア領ヴィリナ（現在のリトアニア）で結成されたユダヤ人社会主義団体。宗教的、シオニスト的、保守的なユダヤ人グループとの協力を拒否しつつ、ユダヤ人独自の社会民主主義組織の維持を目指した。
- p.016 ※ 15 17世紀末頃から現在のウクライナ西部で興った民衆のユダヤ教運動。敬虔主義運動とも訳される。タルムードを中心とした伝統的なユダヤ教に対して、踊りや歌を重視した。
- p.019 ※ 16 「イスラエルの地の宝物 סגלות הארץ」  
יצחק קצנלסון, בחלום ובהקיץ ספורים לילדים, ישראל 1955, ז' 48-49
- ※ 17 「夢においても、目覚めにおいても」  
יצחק קצנלסון, בחלום ובהקיץ ספורים לילדים, ישראל 1955, ז' 45-47
- ※ 18 「ひとあדם」  
יצחק קצנלסון, בחלום ובהקיץ ספורים לילדים, ישראל 1955, ז' 50-60
- p.025 ※ 19 ユダヤ教の年中行事の一つ。紀元前2世紀にセレウコス朝からユダヤ人がエルサレムを奪還したことを記念する。祭は8日間行われ、ハヌッキーヤー（燭台）の両側に広がる8つの枝に1日ごとに火を灯す。
- p.029 ※ 20 イツハク・カツェネルソン『滅ぼされたユダヤの民の歌』飛鳥井雅友・細見和之訳、みすず書房、1999年、91頁
- ※ 21 2021年7月31日開催のワークショップ「シオニズムとワタン」で、細見和之さんの発表に先立って、菅野和也ソロモンさん（京都大学 大学院人間・環境学研究科博士課程）による「「シオンの悲嘆者」運動：中世ユダヤ教における「イスラエルの地」と「捕囚の地」を巡る力学」と題する発表があった。
- p.030 ※ 22 クロード・ランズマン『ショアー』高橋武智訳、作品社、1995年、378-380頁
- p.032 ※ 23 主に16世紀から19世紀にかけて東ヨーロッパで形成された小規模のユダヤ人コミュニティ、居住区を指す。
- p.037 ※ 24 Sabbatai Zevi (1626-1676). トルコ西部スミルナ（現イズミール）生まれ。メシアを自称しながら各地のユダヤ人社会を放浪し、オスマン帝国で捕らえられ、あっさりとイスラームに改宗してしまう。彼の信奉者はサバタイ派と呼ばれ、メシアニズム（救世主待望論）を展開した。